

赤江から「やすぎオーガニックビレッジ構想」への発展

1. 赤江・オーガニックファーム(安来市)

【結 成】 H27年

【メンバー】 結成当時3人→現在6人

【施設面積】

当時76a→現在242a

【施設棟数】

当時34棟→現在106棟

【経営品目】

ほうれん草、
小松菜、水菜、
春菊 等

【出荷先】

主に関西方面、
学校給食



ハウス内の葉物野菜

2. 取組の経過及び概要

安全でおいしい野菜を消費者に提供したいと集まった島根県東部の生産者のグループ「島根おやさい本舗」のメンバーの中で、特に有機栽培にこだわった安来市赤江地域のUIターン者で「赤江・オーガニックファーム」を結成。

全てのハウスで有機JAS認証を取得し、年間を通じて葉物野菜を生産。

さらなる生産と販売の拡大を図るため、ハウス面積を設立当時76aから現在223aに拡大。

また、同じ志をもつ研修生の受入から就農まで支援することで仲間を増やす取組を実践。

平均年齢40代の若いメンバーたちが様々な社会経験を農業経営に活かし、赤江・オーガニックファームを全国区にしたいと情熱を注ぐ。

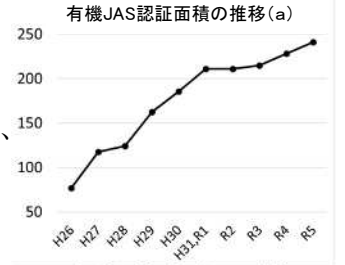


100棟を超えるハウス団地

3. 取組の成果

(1) 有機JAS認証の拡大

有機野菜の生産拡大に向けて補助事業も活用し、ハウスの増棟を進め、有機JAS認証面積も順次拡大。



(2) 師弟研修制度の確立による新規就農者の増加

安来市では、就農希望者が県指導農業士・認定農業者のもとで栽培・経営の両面を研修・習得後に就農する支援制度を整備。

赤江・オーガニックファームでも2名の指導農業士が、就農前研修を受け入れ、H30年度に受け入れた研修生2名のうち1名が翌R元年に同ファームへ加入しメンバーが6名に増加。



新規就農者の研修

(3) 学校給食への提供

赤江・オーガニックファームで有機栽培されたほうれん草、小松菜、水菜、春菊は安来市の学校給食にも提供され、地元産食材として活用。

安定した生産のため、新たな仲間を増やし、面積の拡大をしていきたい。

もっと県内の消費者に有機農産物について知って食べてほしい。

岸川 勉 代表 (56才)



有機JAS認証農産物

4. 課題と今後の取組方向

- (1) 有機JAS認証のメリットを発揮するためのPR強化、品目数の拡大、県内外の販売先の確保。
- (2) 安来市で策定見込みの「やすぎオーガニックビレッジ構想」による安来市全体の有機農業、有機JAS農産物振興の実現。
- (3) 規模拡大や新たな担い手確保に向けて、新規生産団地の整備。